

「不動産情報の一元化に向けた
民間ベースでの取組について」

不動産取引・登記手続における現状課題



ポータル



仲介会社



管理会社



銀行



行政



引越会社

各サービス事業者はそれぞれ不動産情報を入力しデータ整備をするため無駄が多く、同期もされない



ネット検索



現地内覧



重要事項説明



契約



決済



登記



引越手続

共通する不動産IDが無いいため各データ間のデジタル連携ができない



それぞれ書類を
書かされる！



同じことを何度
も入力した！

ひとつの不動産に対する取引プロセスにも関わらずワンストップサービスが実現されない

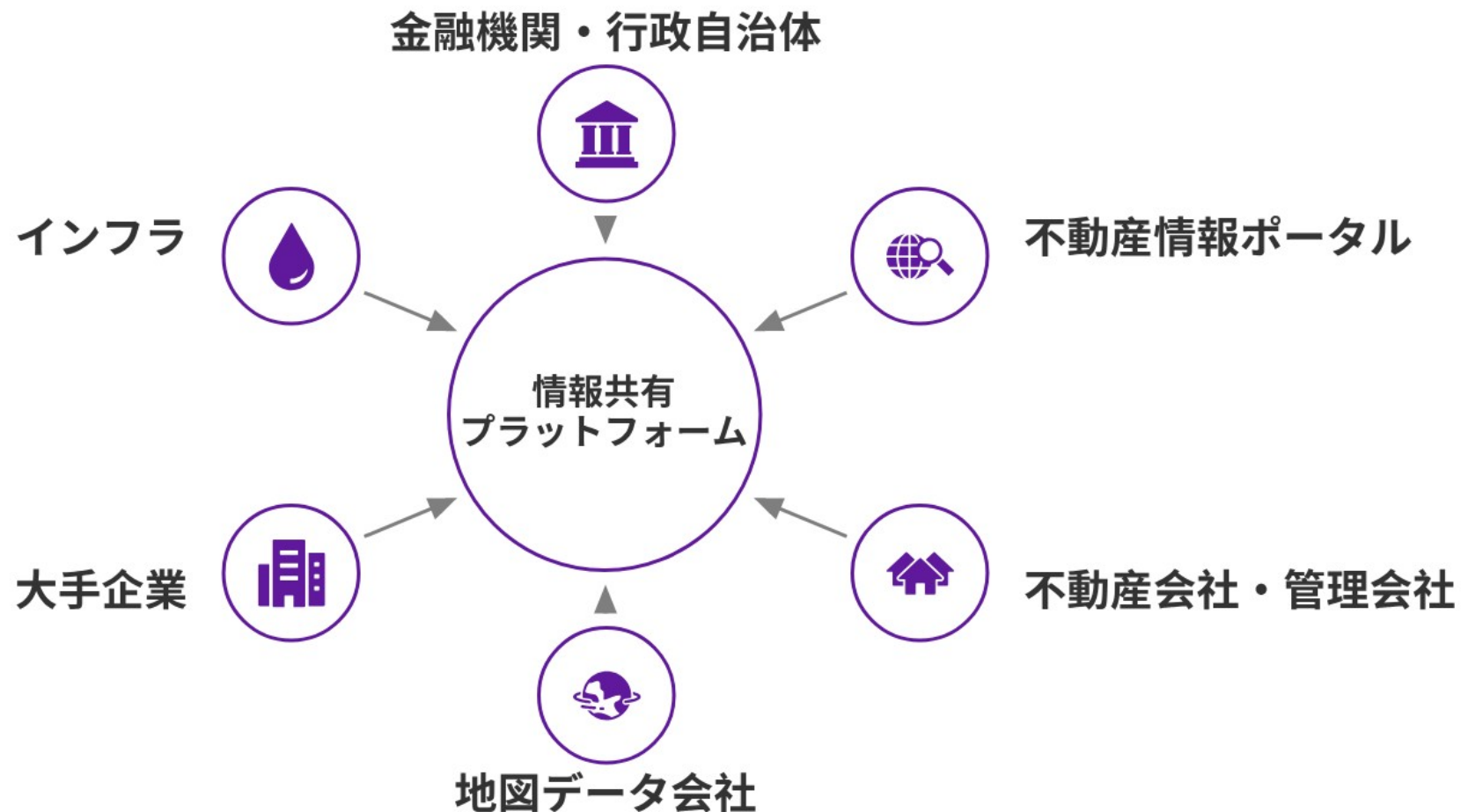
不動産取引・登記手続きのデジタル一元化



個人ID・法人IDの普及と合わせ、不動産IDの整備により
不動産取引・登記手続きをIDベースで完結可能に

ID活用による不動産の共通データベース化

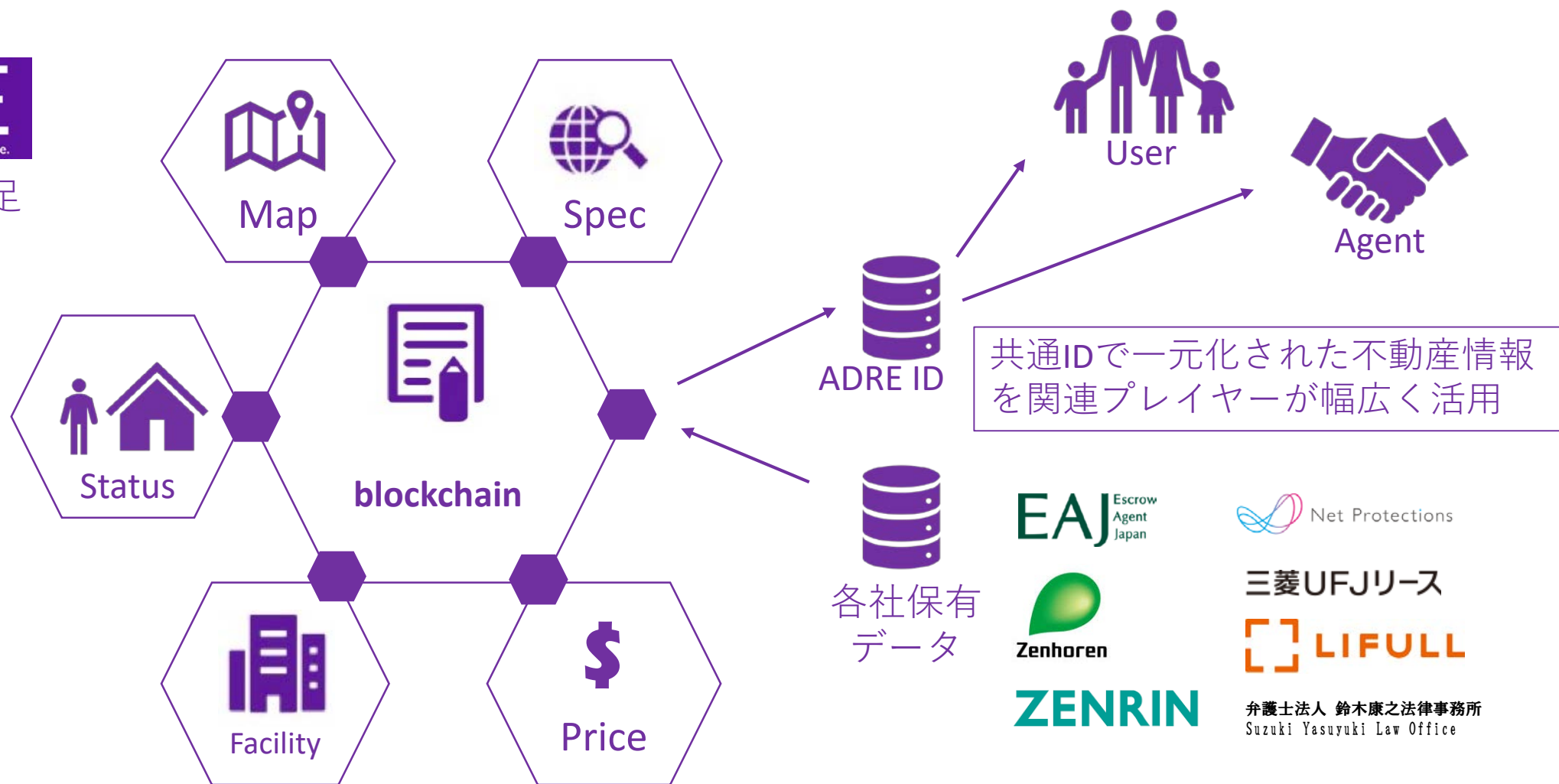
不動産IDを関連プレイヤー間で共有することで
不動産情報をAPI経由で相互利用することが可能に



【取組事例】 民間コンソーシアムでの共通ID構築プロジェクト

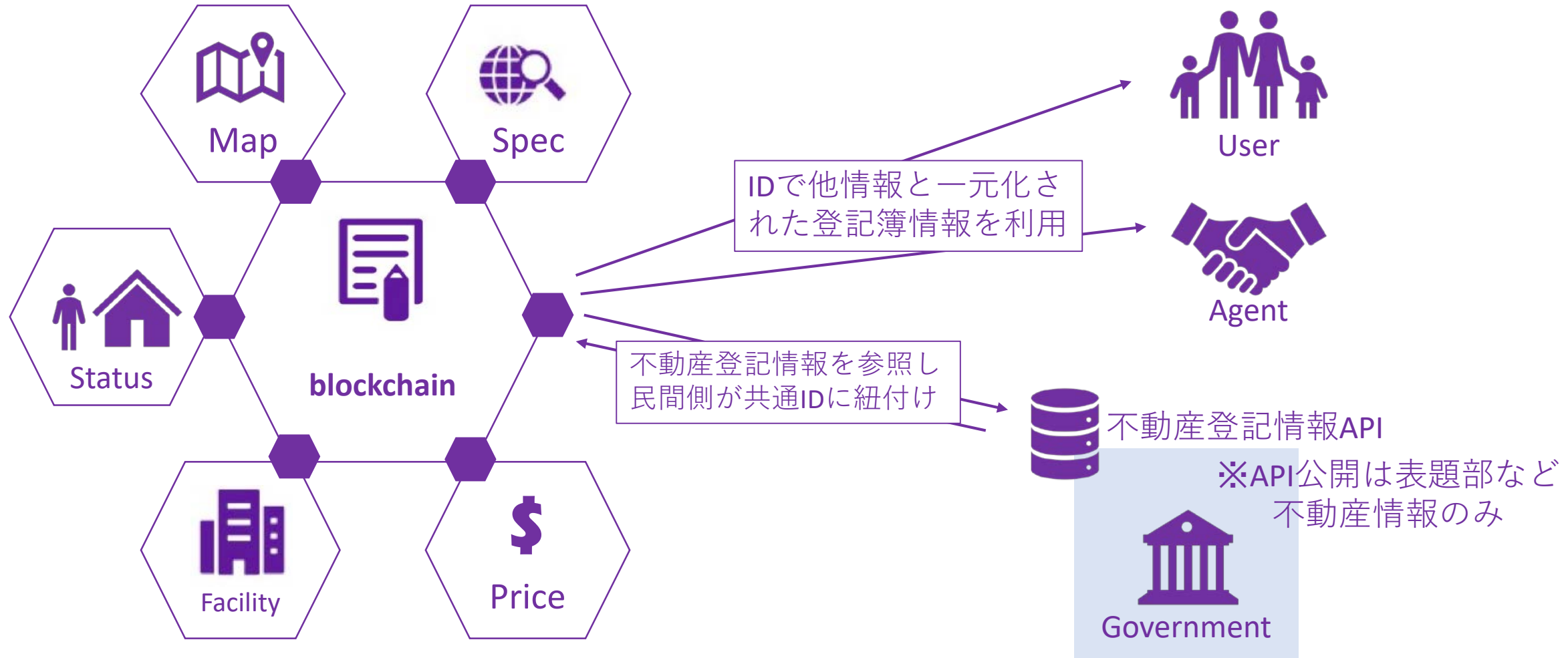


2018年10月発足



不動産情報を分散台帳上で一元的に扱い、情報の非対称性を無くす

【提言】不動産登記情報APIの公開と民間データとの連携



登記情報参照のハードルを下げ、登記に基づいた情報の真正性担保を容易に

不動産取引・登記手続のデジタル一元化に向けて

- 将来的な不動産取引ワンストップサービスを視野に
民間事業者間における不動産ID整備・活用を推進
- 不動産登記情報APIなど、公的な不動産関連DBへのアクセスを
容易にすることで上記IDとの接続・相互利用を推進